

赤外線ワイヤレスマイクロホン（SONY IFM-V1K）と「ソラ」との接続

中村健太郎 2008/5/9 2010/2/13 改

「ソラ」は故佐藤忠さんが開発された箱型の聴こえ支援機器です。

マイク本体は右の写真のように、良く見かけるダイナミックマイクです。線がありません。これは単三電池2本で10時間働くそうです。

受光部は下の写真のように、「ソラ」と同じくらいの大きさです。3mのケーブルがついていて、ソラのマイク入力に差し込みます。（この用途にはこのケーブルは少し長すぎです。）

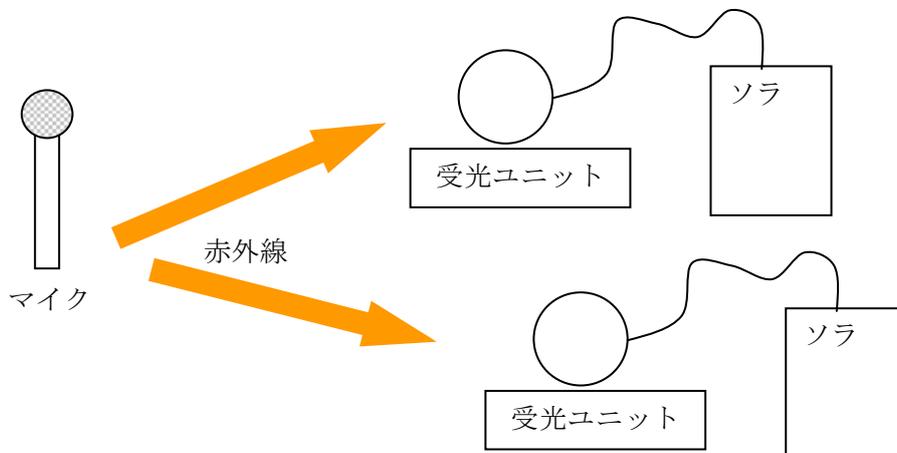
受光部は AC アダプタで電源を供給するようになっています。9V ですが、実際の消費電流は 30mA 程度で、006P 乾電池でも十分動作しました。

とても感度のいいシステムで、壁からの反射光などでも十分動作します。到達距離はカタログ上は 5m です。小さい会議室なら十分です。受光ユニットの性能を落としても、電池 3V で動くシステムになるといいと思います。また、受光ユニットの大きさも半分くらいになるとうれしいところです。



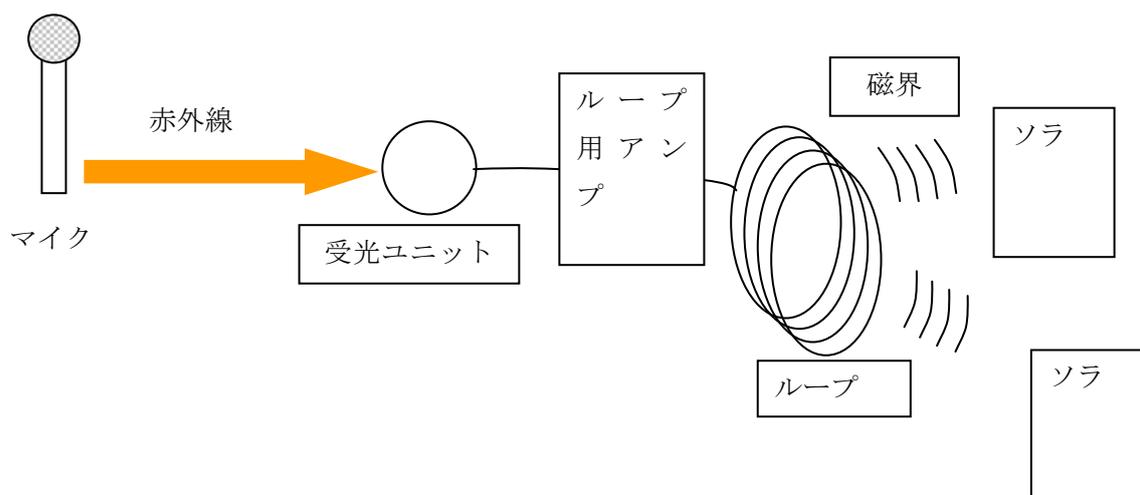
このユニットの使い方としては2通り考えられます。

まずは、前述のように、「ソラ」の直接入力とする方式（方法その1）。このとき、受信側の台数は受光ユニットが準備できればいくらかでも増やせます。



方法 その1 ソラに直接入力

もうひとつは、このユニットからアンプを通してループに磁界を発生させ、それをTモードでみんなで聞く方式です。このマイクはチャンネル切り替えが2つですから、同時に2本まで使えます。マイク入力があるループアンプであれば、このワイヤレスが2本使えます。



方法 その2 ループを使って多数のソラ、補聴器に供給